

# 50. 超急性期脳卒中患者の座位訓練開始基準についての実態調査

## 研究の概要

脳卒中急性期リハビリテーションは十分なリスク管理のもと発症後早期から積極的な介入が勧められています。脳卒中治療ガイドラインにおいても「不動・廃用症候群予防し、早期の日常生活動作(ADL)向上と社会復帰を図るために十分なリスク管理のもとにできるだけ発症後早期から積極的なリハビリテーションを行うことが強く勧められる。」と述べられており、超急性期から適切な急性期リハビリテーションを行うことが重要です。当院の救命救急センターにおける脳卒中患者は重症例が多く、看護スタッフは脳卒中患者の早期リハビリテーション介入の在り方について悩んでおり、本研究を計画しました。

## 研究の目的と方法

本研究は当院の救命救急センターの看護師が、脳卒中患者の座位訓練の開始基準をどこに求めているかを明らかにすることで、早期リハビリテーションの在り方について検討することを目的としています。また、2017年10月～2017年11月に国立病院機構熊本医療センターの救命救急センターに脳卒中の診断で入院となった方を対象としています。入院期間に得られた臨床データ（意識レベル、重症度、入院期間など）を電子カルテから集計します。

## 本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いします。本研究にご自身のデータを使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

## 調査する内容

本研究は新たな試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号）は記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

## 調査期間

研究対象期間：2017年10月～2017年11月

## 研究成果の発表

調査した患者さんのデータは集団として分析し、学会で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表する時も、個人が特定されることはありません。

## 研究代表者

救命救急センター看護師 知識美幸

## 当院における研究責任者

救命救急センター看護師 知識美幸

## 問い合わせ先

救命救急センター看護師 知識美幸

TEL: 096-353-6501